

平成 28 年度第 1 回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 平成 28 年 10 月 12 日（水曜日）14 時 00 分～15 時 30 分

2 開催場所 春日井市役所 12 階大会議室

3 出席者

【会 長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委 員】	春日井市 市長	伊藤 太 (代理 坂野 智)
	名鉄バス株式会社 取締役計画部長兼計画課長	近藤 博之
	近鉄東美タクシー株式会社	
	運輸部長春日井営業所長	相川 敏行
	公益社団法人愛知県バス協会 専務理事	古田 寛
	愛知県タクシー協会 春日井支部長	奥村 薫績
	春日井市区長町内会長連合会 副会長	長縄 秀毅
	春日井市民生委員児童委員協議会	
	地区民生委員児童委員協議会 会長	石原 禧三
	春日井市老人クラブ連合会 副会長	所 信雄
	社会福祉法人春日井市社会福祉協議会 会長	黒田 龍嗣
	春日井市婦人会協議会 書記	伊藤 月美
	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局	
	首席運輸企画専門官（輸送担当）	古橋 靖弘
	愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事	伊藤 匠二
	愛知県春日井警察署 交通課長	沢田 章夫
	愛知県振興部交通対策課 主幹	桑原 良隆 (代理 山口 彩)
	春日井市建設部 道路課長	鈴木 誠司
【発表者】	高蔵寺ニュータウンセンター 取締役	裏見 敏郎
	事業部長	大森 久美
	事業課主査	木村 俊夫
	名鉄バス株式会社 計画部計画課係長	吉岡 実
【事務局】	春日井市総務部交通対策課 課長	梶田 岳宏
	課長補佐	長谷川 弘明
	主査	金田 浩
	主事	大脇 雄太

4 議題

- (1) サンマルシェ循環バスの見直しについて
- (2) かすがいシティバス利用状況について
- (3) その他

5 会議資料

- 資料1 サンマルシェ循環バスの見直しについて
資料2 かすがいシティバス利用実績
資料3 市内の公共交通に関する検討について
資料4 春日井市地域公共交通会議委員名簿
資料5 春日井市地域公共交通会議配席図
資料6 春日井市地域公共交通会議設置規則

6 議事内容

(1) サンマルシェ循環バスの見直しについて

- 【発表者】 資料1に基づき、サンマルシェ循環バスの見直し内容について説明した。
- 【磯部会長】 委員に発表者の説明に対する意見を求めた。
- 【沢田委員】 新設予定のバス停の位置に、既にバス停があるようだが共用なのか。
- 【発表者】 既存の名鉄バスのバス停に併設することになる。
- 【沢田委員】 既存のバス停を使うということか。
- 【発表者】 同じ場所ですが循環バスのバス停は新たに設置する。
- 【沢田委員】 基本的にバス停は両車線にあるもので、ずらして設置しないとバスが接触する可能性がある。その点については問題ないか。
- 【発表者】 サンマルシェ循環バスは片方向で運行しているので特に問題はないと考えている。なお、バス停の設置については、名鉄バスと道路管理者とで協議が整っている。
- 【長縄委員】 どうして見直そうと考えたのか。
- 【発表者】 循環バスの「利便性の向上」や「利用者の増加」を図るために、昨年2月にニュータウンの住民とバス利用者を対象にアンケート調査を実施した。その調査結果を踏まえ、関係者と協議検討を進め、今回の見直しに至ったところである。
- 【長縄委員】 ルート変更だけでいいのか。
- 【発表者】 アンケートではさまざまな意見・要望等をいただいたが、ルート変更に関する意見等も多く寄せられていたため、今回、ルートの一部見直し等の変更を行うものである。今後も利用者等から意見・要望等をいただきながら、多くの方が循環バスを利用しただけのよう必要な見直しは前向きに検討していきたい。
- 【磯部会長】 現状のルートよりも今回の見直し後のルートの要望が強いということか。
- 【発表者】 現行ルートの2つのバス停ではバスを利用する方が少ないということがある。一方、見直し後のルートは（西に300m程ずらしたものだが）、集

合団地に近く、多くのバス利用者が見込める。

循環バスの安定的な運行を図る上では、バス利用者の増加は不可欠であり、今回のルート見直しはより利用者増が見込まれるルートへ変更するものであることをご理解願いたい。

【磯部会長】 現行の名鉄バス路線と重ならないか。

【発表者】 バス停は併設となるが、現行の名鉄バス路線の系統には重ならない。

【奥田委員】 現行路線で安全上の問題はあるのか。

【発表者】 現行路線では、バス運行に道路幅員が十分とはいえないところや見通しの利きにくい道路形状のところもある。

【磯部会長】 アンケート結果では、他にどのような意見・要望があったのか。

【発表者】 ルートの変更以外では、運行本数の増加、バス運行の時間帯の拡大などの意見・要望があった。

【伊藤委員】 利用者の年齢層について教えてほしい。

【発表者】 利用者の8割が60代以上の方であった。

【長縄委員】 押沢台5丁目～高森台中学校に行く人はどれほどいるのか。この途中を利用する人がいないのであれば、直線的に東部市民センターに結んだほうが利用者は増えるのではないか。

【発表者】 押沢台と高森台でルートに分ける要望はあったが、事業採算を考え現行のルートとなっている。

【石原委員】 結果として東部市民センターへ行くバスが減ったのは残念だ。

サンマルシェバスの愛称である「まるるん」が普及していないように感じる。積極的に周知を行ったほうがいい。

【鈴木委員】 路線変更予定日まで2ヶ月も無いので、早急に道路課と協議をしてもらいたい。

【発表者】 関係先とは協議済みである。

【古田委員】 利用者増加のための広報活動をどのように行っていくのか。

【発表者】 効果的な広報を検討し、進めていきたい。

【石原委員】 アピタ側でない中央台のバス停で乗降する人の中には、横断歩道を渡らない人がおり危険である。また上屋も小さいため不便である。

センター側の問題ではないかもしれないが、検討していただきたい。

【磯部会長】 中央台バス停はバス待ち環境、歩道環境等良くない点がある。それぞれ改善できる箇所はあるか。

【事務局】 中央台バス停の環境は認識している。今後の検討課題としていきたい。

【近藤委員】 問題としては認識しているが、事業者だけでは難しい。

【磯部会長】 様々な立場から意見を言い合い、考えないと解決できない問題の典型例である。引き続き考えていくことが大切である。

委員にその他質問や意見等を求めたがなかったため、議事1について全会一致で承認し、必要な手続きを事務局にお願いした。

(2) かすがいシティバス利用状況について

- 【事務局】 資料2に基づき、かすがいシティバス利用状況について説明した。
- 【古橋委員】 マナカの収入は現金収入の中に含まれているという認識でよいか。
- 【事務局】 そのとおり。現金収入の約20%強と名鉄から報告を受けている。
- 【磯部会長】 高齢者カード・運転免許自主返納者・妊婦の1日乗車券の販売数が大きく伸びているが、理由として何が考えられるか。
- 【事務局】 高齢者カードは高齢化ということで配布枚数が増えている。運転免許自主返納者カードに関しては、高齢者による事故の増加から申請をする人が多くなってきている。妊婦のマタニティカードについては平成26年度10月から制度を開始したが、予想を上回る数の申請がきている。細かい内訳について把握はしていないが、それらの申請の増加により利用者が増えていると理解している。
- 【磯部会長】 利用実績をみると高齢者、運転免許返納者、妊婦などの利用が増えていることが伺え、どのようなバスなのかはっきり出ている。全体の実績も上がっているので、8年目がどのようなようになるか注視していきたい。
北部線の利用者数減少の理由としてなにが考えられるか。
- 【事務局】 減少数を1日換算したら1人にも満たない。北部線は地元根付いており生活の一部となっていると考えている。買い物や病院など使い分けて利用されていると思うので8年目には伸びると考えている。
- 【磯部会長】 委員に質問等求めたがなかったため、次の議事に移った。

(3) その他

- 【事務局】 資料3に基づき、市内の公共交通に関する検討について説明した。
- 【磯部会長】 公共交通について、従来は民間事業者がやっていたらよかったが、今は地域でシェアをする必要があり、今後は行政が中心となって公共交通を考えていく時代となってきている。現在の情報はもちろんだが5年後、10年後の情報を積極的に発信していくことが大切である。それが将来の公共交通を考えることにつながっていく。
- 【黒田委員】 75歳以上の高齢者に対する交通の足はこれから重要になっていくと思う。
- 【磯部会長】 アンケート調査では聞きやすい人を調査しがちだが、本当に困っている人の意見はなかなか聞けないものである。そういう人たちの声を聞くように努めてほしい。
- 【事務局】 急な提案でなかなか意見が出にくいと思うが、気づいたことや意見があれば事務局である交通対策課に意見を寄せてもらいたい。
- 【磯部会長】 交通を利用したい人とそれを支える人の組み合わせは、現代において非常に多く存在する。高齢者を家族が支えるというのもその1つだが、これを持続することはできない。通勤・通学は昔から交通の主体だったが、病院に行く、買い物に行くなどいろんな種類の交通の必要性があり、その支え方が課題となっている。アイデアが必要でありつつも、法律の中でや

る必要性がある。そこを突き詰めるために全員が本気で話し合うことが大切である。春日井市にはいろんな立場の人が住んでいるので、多くの意見要望を集めて進めていけたらいい。

【長縄委員】 バス停を家の前につくってほしいと言ったら実現するのか。

【事務局】 横断歩道から一定距離離さないといけない等の規制が多く存在する。それらの規制を全てクリアした上で、地域住民の理解を得ないとバス停の設置は難しい。

【奥田委員】 名古屋市内の住宅街にあるバス停だと上屋がついているが、春日井市内のバス停につけることは可能か。

【事務局】 春日井市内には名鉄バス、あおい交通、名古屋市営交通の3つの事業者が入っているが、名鉄バスについては上屋やベンチを積極的に設置している。ただ、設置する箇所が歩道であることから、バスの利用だけでなく歩行者や自転車の交通安全も考慮に入れる必要があり、法律上のクリアが前提となる。そのため利用者の多いバス停でも設置できないという事例が存在すると聞いている。

【磯部会長】 道路という公共の場所だから問題となるが、大学の敷地内など私有地であれば設置できるというケースも存在する。そのため道路でない箇所を使い待合空間を作るという事例もある。いろんな工夫ができる問題だと思う。バス停を設置しないフリーストップという形態を導入しているところもある。

【石原委員】 平成31年度に契約終了とあるが、シティバスをやめるということか。

【事務局】 やめる予定はなく、5年間で契約しているというだけである。また新たな契約をする時にバス路線を見直すなど検討が必要となる。

【石原委員】 以前、徳洲会病院は南側にあったが、現在は北側に移転してしまい不便になったという声を聞く。病院が移転したからバス停を北側に移すといったことは可能か。

【事務局】 そのような意見は多く頂いている。それらの要望を多く集めて、バス事業者の実情を鑑み、その中で出来ることを皆さんと検討していきたい。

【磯部委員】 多くの意見を集め分別していくことが大切である。

委員に意見や質問を求めたがなかったため、議事を終了した。

上記のとおり平成28年度第1回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

平成28年10月24日

会長 磯部友彦 (印)

署名人 所信雄 (印)